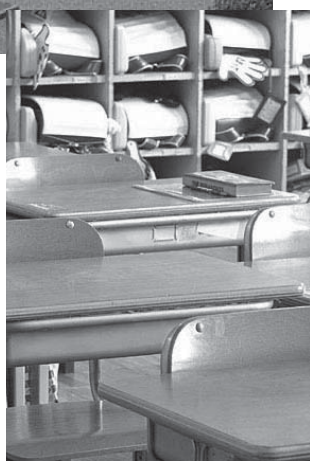
問 少子化が進み、蒲郡市の人口も減っていると聞く。小中学校の統廃合などの方向性があれば教えていただきたい。

答 学校の統廃合については、平成23年度に、適正規模・適正配置検討委員会で市民の代表の方と協議を行い、現状の1学年2～3クラスが適当な規模ではないかという結論をいただきました。

校舎の耐震工事はすべて完了しましたが、いずれ老朽化で校舎を建て替えるときがきます。その時が、これからの学校の規模や場所などについてもう一度考えるタイミングかと思っています。小中一貫校も視野に入れるのも一案と思います。

公共施設のあり方検討市民会議での検討結果を踏まえ、校区、統廃合の問題も解決をはかってまいります。



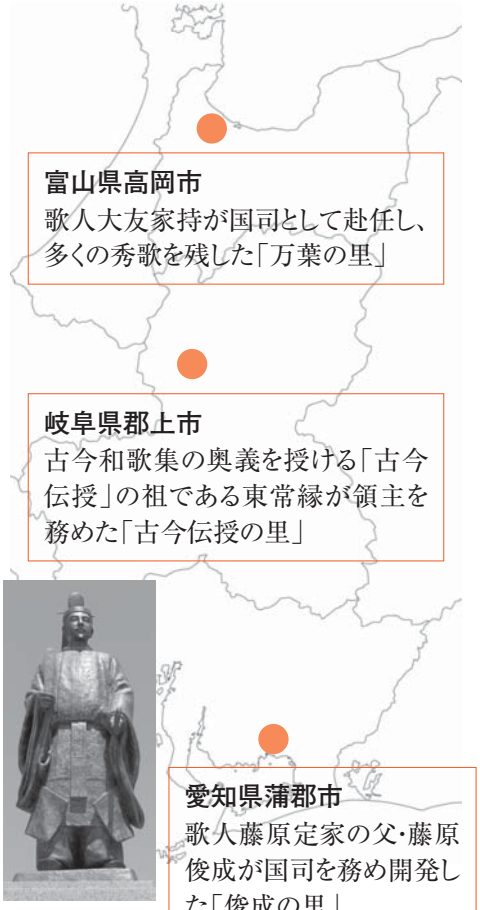
問 ごみ屋敷が市内で見受けられます。その対応についてお伺いします。

答 ごみ屋敷については市内で5件把握しています。5件中4件は、所有者がわかっており、残り1件が、所有者が不明で困っている状況です。所有者が分かっているものは、片付けていただけるよう所有者と交渉していますが、所有者の考え方が一番大きいかなというように考えております。市としては片付けていただくよう慎重にお願いしていきます。

その後 豊田市で起きたごみ屋敷の火事を受け、所有者には失火・放火の注意を呼びかけました。今後も定期的に訪問・説得を続けていきます。市ではごみ屋敷対策の条例制定に向けて研究を進めていきます。所有者の支援と地域との関わり、公平性なども確保できるよう考えていきます。

ごみに見えても所有者にとっては大切な所有物。できる限り、所有者と地域の円満な解決を目指します。

問 蒲郡市は藤原俊成卿ゆかりの地。短歌をもっと盛んにしてはどうでしょうか。

答 『新古今和歌集』の蒲郡市、『古今和歌集』の岐阜県郡上市、『万葉集』の富山県高岡市と、短歌に深く関わる3市で、古典文化を盛んにしようという取り組みをしています。毎年4月に行われる藤原俊成短歌大会は全国から応募がありますが、もっと知名度が上がるよう、取り組んでいきたいと考えています。

展開 藤原俊成短歌大会は今年30回を迎え、3市が集い『短歌がつなぐ歌のまち』と題して短歌文化の伝統と継承についての意見を交わしました。